

【 From Kobe 2016年2月 】

《1.》 1995.1.17. 阪神淡路大震災 21年目の記念日の翌日 神戸の街の空に架かった虹におもう
「風化させてはいけない記憶とはなんなのだろうか？」



21年目の阪神淡路大震災 1995.1.17. 記念日の翌日 神戸新聞2016.1.19.より
神戸の街に美しい虹がかかりました

1月17日 神戸では阪神淡路大震災 21年目の記念日。数多くの行事が行われ、数多くの神戸市民がそれぞれの思いの中でこの日を迎えた。しかし、震災後20年を超えて 行事を担ってきた人たちも高齢化し、年々行事がむつかしくなってきた。また、21年を経て 阪神淡路大震災を経験しない若者が多くなり、震災体験者と未体験の椀物とのギャップが埋められず、行事の中でも 世代間の断絶が懸念される事態も起きているという。

そして 行事に参加する人たちも、行動を共にする人たちも年々減少し、「記念日をどう守るか」「記念日を風化させてはならない」との声がたくさん聴かれるようになった。

「風化させてはならないものは何なのでしょう？」 私自身よくわからず、心情はあっても 行動への確信がない。

神戸の巷でも かつては 人が集まると震災の話で 見ず知らずの人も含め、盛り上がったものですが、実感として 今では ほとんどそんな光景を目にすることもない。

風化させてはならぬことの中身についての議論はほとんどないのが現実で、だれも その中身に意識がゆかない。

「風化」を声高に言っても 「行事」そのものが「風化させてはならぬもの」になってはいないだろうか…

また、未体験の次世代を担う若者にも「行事は行事」との受け止めしかない現実が広がっているのではないだろうか……

これではいくら記念行事をやっても 継承者も育たず、改善の糸口さえないのではないか……と。

数多くの情報が飛び交う情報社会の真ただ中 大事な情報が多くの情報の中に埋没してしまっている。

阪神淡路大震災の翌日 神戸の街の空に美しい希望の虹が現れた。

ますます 高齢化が進む中で 阪神淡路大震災の教訓 そして防災 地域コミュニティの育成等々

それぞれがそれぞれの意識を変えて 取り組まねばならぬこと多し。 がんばろう神戸 そんな虹に見えました。

今一番 大切なものは何か 大切なことは何か 自分にとるべき行動はなにか

そんなことをみんながみんな それぞれの地域一体となって考えねば、震災の教訓の風化は避けられない。

これは 日本人にとって 一番苦手な事かもしれないなあ……と。

ルミノリエの灯 絶やすまい 忘れまい 1995.1.17の記憶

私もそうなのですが、神戸の人達にとって、震災後に ルミノリエの灯が灯った時の感動は忘れられない。
震災直後 真っ暗な公園の火を囲んで 顔を合わせ、暖を取り、語りあい、誰もが お互いを頼りにしあった毎日を
ルミノリエの灯に重ね合わせ、ルミノリエの灯が灯ると自然とあの光の輪の中に行きたくなる。

そんな中で 生まれた知恵・意識・行動が数多くあり、それを次世代の若者たちと共有・共働して、継承ゆくことが、
風化させないこと一番大事なことはないか・・・と。

「自分の命 人の命も大切に」 「利他を思いやる」 それを「絆」・「縁」という人もいるが、
これから生まれる行動連鎖が地域コミュニティとして 日常的に常態化されてゆけば・・・と。



2015年神戸 ルミノリエ 光の環に飛び込んで「神戸が一つになれた希望の灯 忘れまい」 2015.12.5.
鎮魂から未来へ この神戸の灯をいつまでも灯し続け、震災の記憶を語りつなぎたい

神戸淡路大震災から 21年 震災を経験していない若者が増え、街の話題に登ることもめっきり少なくなった
でも、真っ暗な中に ルミノリエの灯がともった時の感動は忘れない。

神戸の街が一つの輪になって よろこびあった暖かい灯。それは変わらず。

観光化の懸念も年々論議されていますが、「神戸が一つになれた希望の灯 これは忘れまい」

鎮魂から未来へ この神戸の灯をいつまでも灯し続け、震災の記憶を語りつなぎたい。

2016.31.19.朝 神戸新聞の 神戸の街の空に架かる虹を眺めながら

by Mutsu Nakanishi



🌈 日々新た 今できることを 精一杯 無理せずゆっくりと

困難の中に居られる方々にエールを!!
いつも 思いをさせています。
「忘れまい 忘れないで 仲間がいる
暖かい希望の輪がつながっていることを」

かみ ともに いますて
得られるものを変える「勇気」
変えられないものを受け容れる「心の静けさ」
両者を見分ける「叡智」を
ニーバーの祈り より

「まあええか 元気だして行こう」と
心は行ったり来たりですが
好奇心さえあれば・・・と前向いて
お互い笑顔で 前向き思考 元気で乗り切って行きましょう

